

明治期以降曹洞宗人物誌（十）

川口 高風

はじめに

本稿は「愛知学院大学教養部紀要」第六十四巻第一号（平成二十八年九月）に所収の拙稿「明治期以降曹洞宗人物誌（九）」の続編である。全項の人物誌が完成した時は『近代曹洞宗人名辞典』と題して刊行する予定で、一日も早い完成をめざし精進している。

凡例

〔見出し項目〕

- 一、収録人物は明治期以降に宗門の発展に活躍した人物で、その出典は「明教新誌」「宗報」「曹洞宗報」を中心に、明治、大正、昭和期以降に刊行された著作や各種雑誌、新聞などから採取した。
- 二、見出しの人名は当時用いた旧漢字とした。事歴の本文は新字体を用いたが、旧字体を使用したものもある。

- 三、見出しの項目はかな見出しを太字で示し、次に漢字を掲げた。
- 四、かな見出し項目は姓と名の間にダッシュを挿入して読みやすくした。

〔見出し項目の配列〕

- 一、配列は五十音順の予定であったが、「い」以降は完成した原稿の順序とした。そのため本稿では「き」の項をとりあげた。
- 二、同音同字の漢字項目は時代順（没年順）に配列した。
- 三、同音異字の漢字項目は第一字目の画数の少ないものからの順とした。また、第一字目が同画数の時は第二字以降の画数の少ないものから配列した。

〔本文の記述とその順序〕

- 一、本文の記述は敬語、敬称の使用を避けた。
- 二、収録にあたっては居住地、号、字、生年月日、父母、誕生地、受業師、本師、学歴、僧堂安居歴、宗門役職歴、社会的職歴、著作類、示寂（没）年月日、行年、参考文献の順とした。不明な場合は記していない。
- 三、本文は基本的に、編著者が直接、居住地へ問い合わせを行った返書（調査用紙）にもとづいて執筆した。それ以外に参考とした文献は末尾に掲げた。
- 四、伝記中の元号の一番最初（初出）に西暦を入れた。ただし、伝記中の生没年には西暦を入れない。
- 五、寺院の所在地が郡の場合は県を入れ、市の場合は県を省略した。なお、平成の大合併による新市町村名への変更を行っていないものもある。
- 六、居住地は歴住の順序通りでないものもあり、何世か不明な場合は記していない。

き

きかくーとうりん 麒麟洞麟

ー明治三十二年(一八九九)

北海道寿都郡龍洞院四世、北海道寿都郡法龍寺開山、北海道島牧郡龍巖寺開山。号は麒麟。越後蒲原郡長戸村の渡邊五郎右衛門の三男に生まれる。受業師は祖園、本師は順應。明治十三年(一八八〇)浅野義顕を請して結制安居する。十五年、久我環溪を請して授戒会を修行し、十八年に本堂の新築工事を行い、翌年に落成した。十四年には法龍寺を建立、二十四年に島泊説教所を設置し、二十二年に退董する。三十二年二月二十二日に示寂した。(『開闢弘法』日東宗教家実伝)

きくーいこう 規矩惟孝

ー明治十四年(一八八二)

高岡市瑞龍寺二十四世、氷見市紹光寺三十世、豊中市仏眼寺十九世、高岡市長徳寺十六世、射水市長寿寺二十世、高岡市林洞

寺二世、池田市東禅寺二世。号は戒庵。富山県射水郡戸破の嶋藤右衛門家に、あるいは大阪長濱屋の規矩家に生まれたといわれる。本師は齊焉島道、興聖寺の回天慧泉、海蔵寺の月潭全龍に参随した。明治十四年十一月四日に示寂した。

きくーかくせい 規矩覚清

安政元年(一八五四)ー

亀岡市積善寺十四世、宝塚市寶泉寺二十三世、茨木市高雲寺十一世。号は聖山。安政元年十二月一日に富山県射水郡小杉町の島田弥三郎の二男に生まれる。受業師は規矩惟孝、本師は俱清閑。明治二年(一八六九)永徳寺の佐藤倍齡の初会に入衆し、九年に佛眼寺の惟孝の随意会において立職、十二年佛眼寺前住の俱清閑の室に入て嗣法する。十三年には弥勒寺の原田良禪に参随した。十六年、高雲寺へ、十九年、積善寺及び栄松寺に歴住した。組長、副取締、所長を務め、両本山布教師として各地に巡錫し、説教の大家として有名であった。徒弟教育にも従事し、男僧、尼僧各々十人以上

を得度した。(『曹洞宗名鑑』)

きくちーえじょう 菊地恵定

嘉永元年(一八四八)ー明治三十九年

(一九〇六)

能代市楞嚴院十五世。号は戒安。嘉永元年に生まれる。慶応元年(一八六五)に得度し、明治九年(一八七六)に伝法する。十九年には楞嚴院に住職し、三十九年旧七月二十五日に示寂した。

きくちーえつみょう 菊地悦明

安政六年(一八五九)ー大正三年(一九

一四)

小山市龍昌寺二十五世、栃木市総徳寺。号は宜参。安政六年十二月十五日に茨城県結城町の菊地家に生まれる。本師は琢明智遷。大正三年十二月九日に五十六歳で示寂した。(『龍昌寺歴住世代帳』)

きくちーぎよくりん 規矩智玉輪

嘉永五年(一八五八)ー昭和六年(一九

三一)

米沢市盛興院、米沢市高岩寺、南陽市東正寺三十一世。号は心月。嘉永五年八月十三日に山形県東置賜郡宮内町の鈴木惣左衛門の子として生まれる。受業師、本師は種月玉田。養広寺禅苗、祇園寺禅棟、不動寺葛城徹玄に参随した。明治十四年（一八八八）に盛興院に首先任職、十六年及び十七年には宗議会議長を務め、總持寺独立曹洞宗革新同盟会支部を起こし、その幹事となる。二十五年に録所副長を拜命、二十七年に米沢市各宗興道会の幹事兼常議員に当選、二十九年には米沢第二号曹洞宗務支局事務会計、三十四年特選により、八月二十七日を以って東正寺の住職を拜命。四十三年には山形県第六宗務所長及び總持寺再建祠堂勸募督励員などを歴任。大正四年（一九一五）には十大弟子の尊像を安置し、六年にも同宗務所長を拜命し、八年には鐘樓堂を瓦葺に改造するなどして法幢地に昇格させた。また、管内布教部長にも就いた。昭和三年にも山形県曹洞宗務所長を拜命しており、六年十二月四日に八十歳で示寂した。（『現代仏教家人名辞典』）

明治期以降曹洞宗人物誌（十）

きくちーしゅんゆう 菊池俊友

明治十年（一八七七）ー大正七年（一九一八）

山形県東置賜郡松岩院十九世、南陽市珍蔵寺十六世（十九世）。号は月山。明治十年に山形県東置賜郡金山村の菊池嘉七の子に生まれる。受業師、本師は金山俊興。明治二十二年（一八八九）に山形専門支校を経て、曹洞宗大学林を卒業、さらに英語学校に三年間学び、宗門留学生に選抜されて比叡山に三年間留学して性相部を専攻した。四十二年には教導講習院を卒業して軍人布教師に任命され、高等学林教授、第二中学林教頭、仙台の梅檀中学学監、特派布教師などを歴任した。大正七年五月十日に五十四歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

きくちーしんりゅう 菊地眞龍

明治元年（一八六八）ー昭和十四年（一九三九）

遠野市曹源寺十五世、釜石市林宗寺十七世、気仙沼市宝鏡寺二十九世。号は南海。明治元年三月二十二日に岩手県上閉伊郡橋

野村の小笠原源之丞の三男に生まれる。受業師、本師は菊地祖雄。明治十八年（一九〇三）十一月に盛岡学林に入学し満三年で全科を卒業する。宗議会議員に四期当選し、宗議会特選議員を一期務め、昭和十四年十二月七日に七十二歳で示寂した。（『曹源寺由緒録』『宗教時報』第一三三号、「傘松」第一四八号）

きくちーだいせん 菊池大仙

嘉永五年（一八五二）ー大正二年（一九一三）

宮城県柴田郡繁昌院二十一世。号は聖嶽。嘉永五年に生まれる。本師は大洞密仙。明治十八年（一八八五）、三十四歳で曹洞宗大学林を卒業し、二十四年の永平寺貫首選挙に当って、宮城県教導取締代表の開票立会人となり、剛直振りを示した。二十九年に宗会議員となり、副議長、曹洞宗第一中学林の初代林長も務めた。それ以前には、昌伝庵の大友堅孝、保寿寺の氏家浄眼とともに宗内徒弟教養のため、沙弥校の設立を發起して規則などを制定し、曹洞宗務局の

指令を受けて開設した。また、東北連合仏教会を設立して会長を務め、『東北の燈』を発刊し時事を論じた。著作には『編年摘要曹洞宗史略』がある。大正二年二月五日に六十二歳で示寂した。(『明教新誌』第二五〇五号、『洞上高僧月旦』洞門二十五哲)

きくちーちけん 菊池智賢

安政四年(一八五七)ー昭和二年(一九

二七)

釜石市石応禪寺十五世、岩手県紫波郡長岩寺二十世。号は大拙。安政四年四月八日に岩手県山田町船越に菊池藤六の四男に生まれる。受業師は興禪、本師は大応道英。明治十年(一八七七)、岩手県曹洞宗専門支校に入学し、十二年には東京専門本校附属校に掛籍、十三年冬、同本校生に転入した。十六年には青森県第二専門支校教師、十九年に岩手県専門支校教師、三十五年には特命支局取締心得、四十四年に布教師に就いた。なお、二十五年には石応禪寺の庫裡、二十七年に本堂、大正十四年(一九二

五)に鐘楼、山門、不老閣を建立。大正元年には釜石青年会長、釜石信用組合理事、組合長を務めた。昭和二年五月二十四日に示寂している。(『明峰山石応寺史要』『曹洞宗名鑑』)

きくちーてつりゆう 菊池徹龍

明治十七年(一八八四)ー昭和四十一年

(一九六六)

遠野市曹源寺十六世。号は巨雲。明治十七年五月五日に岩手県上閉伊郡橋野村の小笠原亥之助の三男に生まれる。受業師、本師は菊地眞龍。明治三十六年(一九〇三)可睡齋に安居し、四十四年から大正五年(一九一六)まで盛岡市報恩寺に安居した。四十四年九月から大正十四年八月まで、岩手県第五宗務所第一組長を四期務め、大正十四年八月から昭和十七年九月まで岩手県宗務所第十一教区長を四期務めた。昭和八年(一九三三)から三十年まで上郷村村会議員を四期務め、その間には議長を六年務めた。民生委員も多年務めている。昭和四十四年一月二十八日に八十三歳で示寂した。

(『曹源寺世代録』)

きしーげつたん 岸月潭

嘉永五年(一八五二)ー昭和二年(一九

二七)

三原市宗光寺二十四世、愛媛県越智郡宝蔵寺十四世、尾道市西金寺十二世、今治市隆慶寺二十二世。号は掉舟。嘉永五年一月五日に広島県御調郡三原町の福永左衛門の三男に生まれた。受業師、本師は碧潭老龍。瑞応寺の耳山黙仙、陽松庵の雪庵玄朗、福昌寺の柏巖伝苗、その他、梅崖奕堂らに参随した。明治三十年(一八九七)に四十六歳で宗光寺に僧堂を開単し、昭和元年(一九二六)十月十五日に永平寺後堂を拜命した。昭和二年七月二十八日に七十六歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』「明教新誌」第一四九七号)

きしーしゅうがく 岸秀岳

文久三年(一八六三)ー昭和十六年(一九四一)

小田原市東泉院二十世。号は富仙。文久三

年十二月八日に神奈川県足柄下郡小竹村の岸平兵衛の二男に生まれる。受業師は亀泉秀玉、本師は武井亮光。明治十一年(一八七八)四月、香集寺の高田静高の初会に入衆、十三年夏、宝泉寺で立職し、同年に神奈川県第二号専門支校に入る。武井亮光の室に入り伝法した。十九年、曹洞宗大学林を卒業。以後、原坦山の仏仙社に入って勉学に務める旁ら、中村敬宇の同仁社に学んだ。神奈川県専門支校教師も務めた。三十三年に、政府宗教法案の制を議論せんとする世論が起り、神奈川県に仏教国民同盟会を組織した。四十四年には小田原新玉町に石井裁縫女学校ならびに仏教婦人会の道場を新設して自ら校長、会長を務め、同校舎内に小田原青年会を開き布教に尽力した。生前中に『蛇石集』『蛇石集新詩篇』を著わしており、水墨の禅画を得意とし漢詩人をもつて知られた。昭和十六年九月十一日に七十九歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『富仙秀岳和尚本然記』)

きしーてつゆう 岸哲勇

一 大正元年(一九一三)

天童市法体寺十七世、山形県西村山郡長伝寺十三世、山形市高源寺十六世。山形県西村山郡左沢町橋上の岸六郎兵衛の二男に生まれる。号は海嶽。受業師、本師は天瑞智鳳。明治九年(一八七六)に火災によって本堂、庫裡などを全焼したが、二十三年に本堂を再建した。大正元年十一月十六日に七十四歳で示寂した。

きしざわーいあん 岸沢惟安

慶応元年(一八六五)一 昭和三十年(一九一五)

養父市永源寺、鴻巣市清法寺十四世、豊岡市養源寺二十四世、青森県三戸郡法光寺三十五世、兵庫県美方郡安泰寺、焼津市旭伝院開山。号は眠芳。慶応元年七月二十五日に武蔵国豊田村に生まれた。幼名は計之助。受業師、本師は西有穆山。明治十五年校訓導として勤務した。三十年九月に発心して可睡斎の西有穆山について得度、三十

四年八月、總持寺貫首に昇住した西有穆山に入室嗣法、四十年七月、丘宗潭に随侍、

『正法眼蔵』の権威西有穆山とその門下丘宗潭に学び、生涯を『正法眼蔵』の参究に尽くすこととなった。その後、准師家となり、修禅寺僧堂及び西有寺僧堂で雲衲の接得に努めた。四十五年三月、養源寺に転住。この頃から榎林皓堂、足羽雪艇、橋本恵光らが参じている。大正十年(一九二一)京都安泰寺に転住し、十二年に旭伝院を開創した。大正八年より昭和六年(一九三一)まで、永平寺の眼蔵会の講師を務めた。昭和十二年十一月より十六年四月まで永平寺西堂に就いており、著書に『正法眼蔵全講』『五位顯訣元字脚葛藤集』『正法眼蔵菩提薩埵四摂法葛藤集』『参同契葛藤集』『信心銘葛藤集』『典座教訓講話』『修証義大綱講話』『戒法のお話』などがある。三十年三月二十六日に旭伝院の隠寮において九十一歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『傘松』第四九二号)

きしざわーちとう 岸沢知等

明治三十七年(一九〇四)ー平成二年(一九九〇)

養父市永源寺。明治三十七年三月三十日に兵庫県養父郡八鹿町に生まれた。本師は岸沢惟安。駒澤大学仏教学部本科を卒業、永平寺に安居し、曹洞宗宗務所長や教区長、民生委員、保護司、人権擁護委員などを務めた。平成二年十一月二十五日に八十七歳で示寂した。〔曹洞宗現勢要覧〕「傘松」第五六八号)

きしだーせつじょう 岸田雪城

ー昭和三十二年(一九五七)

萩市東雲寺二十世、萩市中善寺二十世、萩市亨徳寺二十一世。号は文海、本師は山田文勇。曹洞宗地方布教部委員を多年にわたって務め、地方布教の進展に尽力した。昭和地方教界の重鎮として宗内に令聞あり。昭和九年(一九三四)には山口県曹洞宗宗務所長となる。三十二年三月四日に八十二歳で示寂した。〔現代仏教家人名辞典〕

きしだーてんまる 岸田天磨

明治四十三年(一九一〇)ー平成三年(一九九一)

長野市興禅寺三十三世。号は智月。明治四十三年七月十七日に岸田天山の長男として生まれる。受業師は岸田天山、本師は孤峰智瓊。西部中等公民学校、駒澤大学で学んだ後、總持寺に安居した。昭和四年(一九二九)には頼岳寺僧堂に安居し、六年九月に興禅寺住職となった。十八年(一九四三)十一月より二十一年五月まで応召し軍役に服した後、帰山して興禅寺を維持するとともに幾多の事業を遂行して寺門興隆に務めた。平成三年二月十九日に示寂した。〔神峯山興禅寺史〕

〔神峯山興禅寺史〕

きしだーどうかい 岸田道開

明治元年(一八六八)ー昭和十六年(一九四一)

北海道天塩郡寿養寺十九世、北海道苫前郡金龍寺四世、北海道天塩郡道開寺開山、北海道天塩郡養寿寺開山、北海道天塩郡清輪寺開山、北海道奥尻郡耕養寺三世。号は心

田。明治元年十一月八日に北海道松前郡福

山町の岸田吉太郎の子に生まれる。受業師、本師は天野孝道。明治十五年(一八八二)北海道曹洞宗第二宗務支局附属専門支校に入学し、十八年に学科四級を卒業、十七年八月より天徳院の森田悟由に参随した。二十八年一月に天塩国苫前郡苫前町に新寺を創立し、三十年には金龍寺の公称を得た。大正二年四月以来、高崎育児院の田辺鉄定と謀り、児童を引率して実地開墾に従事した。北海道宗務所第十二教区長を務め、昭和十六年一月九日に七十四歳で示寂した。〔現代仏教家人名辞典〕

きしのーきょうじゅん 岸野恭順

明治四十一年(一九〇八)ー平成九年(一九九七)

宝塚市宝泉寺。明治四十一年十一月に福井県丹生郡朝日町に生まれる。本師は規矩寛如。昭和九年(一九三四)に駒澤大学専門部高等師範科を卒業し永平寺に安居した。兵庫県選出の宗会議員などを歴任し布教部長、宗議会議長、兵庫第一宗務所長、宗

門学校理事、評議員及び監事、参事会議長、総合特別審議会々長、その他の各種委員長や予算委員長、同真会本部長、顧問、宝塚市仏教会長、寺院福祉審議会々長なども務め、宗外では民生委員も務めた。平成九年六月十四日に九十歳で示寂した。(『曹洞宗報』七四三号、「傘松」第六四六号『曹洞宗現勢要覧』)

きじまーいつざん 來島逸山

ー明治三十三年(一九〇〇)

松江市桐岳寺二十世。号は文苗。島根県仁多郡阿井町に生まれる。本師は黙庵達道。明治三十三年十二月二十二日に七十六歳で示寂した。

きしもとーだいのう 岸本大能

ー天保十四年(一八四三)ー大正六年(一

九一七)

三田市慶安寺十四世。号は慧宗。天保十四年三月五日(戸籍)、あるいは十一月二十日に兵庫県水上郡森村の和田甚兵衛の二男に生まれる。受業師は禅峰、本師は一翁大

喝。安政五年(一八五八)二月より心月院の画龍に随侍す。文久二年(一八六二)深谷寺の祖乗の初会で首座を務める。慶応元年(一八六五)二月二十八日に慶安寺の一翁大喝の室に入り嗣法する。同年六月、慶安寺に住持し、明治十五年(一八八二)より二十九年まで兵庫県第一号支局副取締を務めた。大正六年六月二十二日に七十五歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

きしもとーりゆうこう 岸本隆孝

ー明治二十八年(一八九五)ー昭和六十年

(二九八五)

小浜市永福庵三十二世、小浜市空印寺四十二世。号は大圓。明治二十八年九月五日に福井県今立郡北日野村庄田に生まれる。受業師、本師は久我顕孝。明治四十三年(一九一〇)三月、敦賀郡松原村の松原尋常高等小学校高等科を卒業した後、四十四年三月まで永建寺、四十四年から大正三年まで、臥竜院、三年から四年まで名古屋市大光院、四年から五年まで永平寺、五年から六年まで東京都豪徳寺、七年から十二年まで

永建寺に安居して上野舜顕、梶川乾室、熊沢泰禅らに参随した。永平寺高祖大師報恩授戒会教授師、福井県宗務所長、福井県布教師、布教委員長、福井県司法保護委員、小浜市仏教会長、遠敷郡仏教会長などを務めた。昭和六十年八月十七日に示寂した。(『洞門龍象要覧』)

きたーどういつ 北 道逸

ー明治二十二年(一八八九)ー昭和二十五年(一九五〇)

防府市成海寺二十二世。号は機外。明治二十二年十二月二十四日に佐賀県杵島郡東川登大字袴野の北平次郎の四男に生まれた。受業師は永溪素龍、本師は天鏡賢然。明治三十八年(一九〇五)九月、曹洞宗第四中学林に入学し、四十三年七月に卒業、大正九年(一九二〇)三月二十九日に成海寺二十二世に就く。山口県曹洞宗宗務所長、宗会議員、準師家も務め、多々良学園の発展に尽力した。昭和二十七年五月二十八日に六十三歳で示寂した。

きだーてんしん 木田天信

明治三十年(一八九七)ー昭和五十六年(一九八二)

鳥取県八頭郡吉祥寺十八世。号は仁学。明治三十年五月五日に鳥取県東伯郡北条町江北の小原家に生まれる。後に木田氏の養子となり改名する。受業師は石井泰禪、本師は木田真竜。大正二年(一九一三)に郡立実業学校を卒業し、南天坊老師にも随侍する。昭和十八年(一九四三)から二十年まで永平寺直歳、町、社会教育委員、司法委員なども務めた。著作は『参同契・宝鏡三昧の諸詠』『大智徳頌の新提唱』『正法眼蔵讃偈簡訳』などがある。昭和五十六年三月十五日に八十五歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』)

きだーとうこう 木田韜光

嘉永六年(一八五三)ー大正四年(一九一五)

岐阜県不破郡禅幢寺三十二世、名古屋市護国院(永平寺名古屋別院)七世。号は遼空。嘉永六年に生まれる。漢学を太田梁

平、愨大機、溪毛介、中村謙などに学び、

天外石橋、成川百衲、不破一牛、原坦山、

折居光輪などに参随した。曹洞宗大学林卒業後、学林の教授、支局取締、布教師などを歴任し、宗門の時弊を憂い、弘津説三、

斎藤運三らと梅檀社を設立し東洋宗教新聞を発行した。明治三十二年(一八九九)より永平寺監院、曹洞宗務院総務、宗会議長の公選議員二回、特選議員三回、宗会議長

二回を務めた。名古屋の檀信徒より名古屋

市布池町に承陽大師奉安殿建立の計画があり、その総裁に推挙されて、四十四年一月

に護国院住職に就いた。京都道正庵より道

元禪師木像を拝請奉安して寺格を常恒会に

昇進させ、永平寺布教伝道の出張所とした。また、愛知県吉祥講本部を設け、本

殿、庫裡、玄関、書院など五百坪の大伽藍

とした。大正四年七月十一(十)日に示寂

している。(『河上高僧月旦』『開運の光』

『曹洞宗名鑑』)

きたーごしーかいじょう 北越戒定

明治九年(一八七六)ー昭和二十二年

東京都万福寺二十二世、東京都長谷寺三十世。号は大賢。明治九年二月十三日に東京都荏原郡馬込村に生まれる。受業師は黒田賢孝、本師は北越円浄。中学林、高等学林を卒業し、曹洞宗大学林に入って三十四年(一九〇二)に卒業、四十三年に宗務所長

となる。四十四年に長谷寺に認可僧堂を開

設して准師家となり雲衲を接化した。麻布

少年教会を起し、布教雑誌「道の友」を発

(一九四七)

行する。孤児救済施設福田会の常務理事も

務め、昭和二十二年三月十六日に示寂し

た。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞

典』『麻布長谷寺誌』)

きたーごしーぐかい 北越具戒

天保十一年(一八四〇)ー明治三十四年

(一九〇二)

東京都萬福寺、東京都長谷寺(永平寺東京

都別院)二十九世。号は圓成。天保十一年

十一月五日に越後国頸城郡根越村字曾根田

の山崎八十二の四男に生まれる。受業師、

本師は水口龍機。嘉永四年(一八五二)、

江戸に出て所沢市久米の永源寺の豪仙に侍して読書習経した。翌年五月二十三日に喜運寺の龍機に就て得度し、四年間随侍した。安政三年（一八五六）より遊方行脚し、白鳥鼎三、久我環溪らに参随した。六年九月に武州荏原郡馬込村萬福寺に首先住職し、翌万延元年（一八六〇）三月二十三日に武州成田龍淵寺の龍機の室に入り嗣法し、文久二年（一八六二）四月、永平寺で転衣し、明治二年（一八六九）に萬福寺で初会を修行して、十五年には長谷寺へ転住した。曹洞宗副取締、福田会育兒院の監事、評議員を務めており、貧民教育や貧民救済など、東京府下における有志の公共事業にも加わった。明治三十四年三月一日に世寿六十二歳で示寂した。（『麻布長谷寺誌』「通俗仏教新聞」第三五一号『福田会沿革略史』）

きたざわーそみん 北沢素珉

文化五年（一八〇八）ー明治八年（一八

七五）

藤枝市栄昌寺二世、菊川市長安寺十九世、

明治期以降曹洞宗人物誌（十）

静岡県周智郡大洞院輪番。号は性海、瓦全、礫友。文化五年（一八二二）に静岡県駿河国安部郡黒俣村の北沢家に生まれる。受業師、本師は石倉素龍。文政十年（一八二七）より大興寺の寛量に就て修学し、天保十二年（一八四一）まで吉祥寺梅檀寮にて八年間修学、栄昌寺の寺子屋で多くの子弟教育を行った。明治六年（一八七三）十月より曹洞宗内教導職幹事に就き、著作には『莠語千字文』がある。明治八年九月九日に六十九歳で示寂した。（過去帳履歴書）

きたにーりようさい 喜谷良哉

明治十年（一八七七）ー昭和四十三年

（二九六八）

東京都梅林寺二十八世。号は慈門。明治十七年七月十二日に浅草区馬道町に生まれる。受業師は起雲吟龍、本師は南嶺保寿。明治

三十年（一八九七）曹洞宗高等学校卒業、東京錦城学校中退、曹洞宗高等学林中退、哲学館卒業。三十九年宗務院財務部書記、昭和五年（一九三〇）より東京宗務所

賛事、同参与。十三年九月、東京曹洞宗宗務所長就任、十四年布教管理、十三年より十六年まで事変対処局参務、十七年准師家に任命される。二十年には曹洞宗審判会審判長に任命され、二十三年五月に總持寺副監院、十月教育部長及教学研究所長、三十四年十二月に本山准顧問、三十五年一月二十二日に本山顧問会副議長に選任される。宗外では仏教広済会理事、司法保護委員を務めた。明治三十四年頃より俳文学研究に志し、河東碧梧桐に師事して俳人生活を送った。著書に俳句集『寒煙』『梅林句屑』『碧梧桐句集』『地橙孫句抄』『虚白』

などがあり、昭和四十三年十二月二十日に示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』『洞門龍象要覧』『梅林二十八世中興慈門良哉和尚経歴』）

きたのーげんぼう 北野元峰

天保十三年（一八四二）ー昭和八年（一

九一九）

東京都青松寺四十四世、永平寺六十七世。号は大寅、不二庵。天保十三年十一月一日

に福井県大野郡小山村字楸掛村の北野孫四郎の十男に生まれる。受業師は哲量、本師は素信魯衷。安政元年（一八五四）には長野県長国寺の覚巖に随身し、五年に東京府松月院の魯衷に随身した。万延元年（一八六〇）には東京府豪徳寺の俊竜に、慶応二年（一八六六）に茨城県大雄院の正庵に、明治元年（一八六八）に滋賀県清涼寺の清拙（雪爪）に随身した。元治元年（一八六四）には碩童より魯衷に転師しており、慶応二年（一八六六）に魯衷の室で嗣法した。三年八月二十日、永平寺において転衣し、明治六年（一八七三）に青松寺住職となる。総持寺監院にも任ぜられており、翌年には教導取締の要職に就いた。この頃に起った永平寺、総持寺の両本山分離の抗争の中に立ち、宗門の安定に努めた。三十八年に青松寺を引退し、四十四年、朝鮮布教総監に赴任し、大正九年に永平寺六十七世となる。著書に『起信論講義』『金剛経講義』『少室六門講義』『証道歌講義』『北野元峰禪師法話集』『禅道法話集』などがあり、昭和八年十月十九日に九十二歳で示寂

した。（『仏教各宗高僧品評』『洞上高僧月旦』『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『永平元峰禪師伝歴』『福田会沿革略史』）

きたのーりようどう 北野良道

大正二年（一九一三）ー平成九年（一九九七）

高島市正伝寺二十五世、高島市光明寺二十五世、大野市宝慶寺五十四世。号は徹心。

大正二年八月二十日に福井県丹生郡織田町織田に生まれる。受業師、本師は清水良徹。駒澤大学専門部国漢科卒業、永平寺安居。特派布教師、滋賀県宗務所副所長、永平寺単頭、副監院、近畿管区教化センター

統監を務めた。御直末会会長、孝順会会長なども歴任し、宝慶寺に専門僧堂の許可を得て、堂長、師家として活躍した。平成九年十二月七日に世寿八十四歳で示寂した。

〔『洞門龍象要覧』『曹洞宗現勢要覧』一傘松〕第六五一号）

きただまりーかくせん 木田餘鶴仙

一 明治四十年（一九〇七）

岡崎市龍溪院独住三世、島田市大覚寺二十一世。号は春巖。受業師、本師は大乗竺仙。明治十一年（一八七八）に火災で類焼した大覚寺の復興に努めた。教導講習院の講師も務め、『仏教の真髓』『龍溪大乘禪師語録』などを刊行した。明治四十年十一月三十日に五十六歳で示寂した。（『天王山大覚寺誌』『大澤山龍溪院誌』）

きたみーしょうゆう 北見正夫

明治四十五年（一九二二）ー昭和五十五年（一九八〇）

茨城県北相馬郡来見寺三十世。号は大丈。明治四十五年一月三十日に生まれる。本師は北見賢孝。昭和十四年（一九三九）に總持寺僧堂研究科修了。方面委員、同委員長、郡副会長、司法保護委員、保護司、同郡副会長、人権擁護委員、利根町公民館長、北相馬郡特別職報酬審議会委員長などを務めた。昭和五十五年八月二十三日に六十八歳で示寂した。（『洞門龍象要覧』『曹洞宗現勢要覧』）

きたむらーだいえい 北村大栄

明治三十三年(一九〇〇)ー昭和五十八年(一九八三)

茅ヶ崎市善谷寺二十世、山梨県西八代郡善応寺十八世。号は真道。明治三十三年一月二十九日に大阪市福島区浦江に生まれる。受業師は規矩覚清、本師は高橋良之。昭和三年(一九二八)に駒澤大学東洋学科を卒業。布教師、日曜学校教科書編纂委員、世田谷中学校教諭、駒澤大学講師、教学審議会委員、高松宮歌集編纂係などを務め、東京都日の丸幼稚園を設立して園長にも就いた。著書に『慈愛の母観音さま』『お地藏さま』『童話絵話の理論と実際』『お話の楽園』『不滅の光』『家庭禅話』『新訳修証義』『日の丸教育美談』などがあり、昭和五十八年六月二日に八十四歳で示寂した。

〔洞門龍象要覧〕「傘松」(第四七八号)

きたむらーりようせん 北村亮仙

嘉永六年(一八五三)ー大正七年(一九一八)

秋田県山本郡長泉寺十六世、秋田県山本郡

自福寺十四世、秋田県山本郡盛沢寺十八世。号は仏乗。嘉永六年五月十日に能登鳳

至郡劔地村の北村清右衛門の四男に生まれる。受業師、本師は葛蔭北仙。明治十一年(二八七八)に自福寺に第一号曹洞教会を結び、自から会長となった。二十一年には曹洞宗大学林内の説教講習会の講習員となった。また、公選議員、二十七年に秋田県宗務支局取締となる。二十一年より二十七年間私塾(寺子屋)を自坊に設け、高等小学校卒業生に教授した。地域における優秀な人材がここから輩出しており、大正七年二月五日に六十六歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『明教新誌』第四二二、一三六一、二一一七号)

きたやまーぜつさん 北山絶三

天保八年(一八三七)ー大正四年(一九一五)

大阪市太平寺十六世、金沢市祇陀寺、鴨川市長安寺、岐阜県不破郡妙応寺四十一世。

号は無一、雪灘。受業師は龍淵寺の宗麟、本師は浄住寺の文峰。天保八年十月八日に

金沢市宗叔町の中村準作の七男に生まれる。嘉永五年(一八五二)より美濃全昌寺

の清拙に、六年九月より濃州禅幢寺の大之に、安政元年(一八五四)より総覚寺の寛

潮、永明寺の百詢に、安政二年には龍泉寺の満舟に、四年に、孝顕寺の應龍に参随した。万延二年(一八六一)二月二十五日に祇陀寺の首先住職となり、明治三年(一八七〇)九月五日に太平寺に転住し、五年六月には大阪管内説教師となり、七年五月十五日に大阪府下一宗教導取締、八月より大阪合併(神道・仏道)中教院事務担当となり、八年五月まで担当した。八年四月二十四日に大講義に補任された。九年十一月三十日に大阪府教導取締、十年一月二十六日に大阪府下総教公講長、十一年六月十一日、永平寺二代尊大遠忌大書記兼賞勲係、十四年七月十四日に権大教正、十五年六月二十三日に両大本山貫首より本校建築係、十五年七月十日、護法会設立に付、千葉

県、茨城県、福島県、宮城県、秋田県、山形県、栃木県の各宗務支局へ勸募法説示の派出、十六年五月七日、護法会係会監(十

七年三月十五日には退任)、曹洞宗事務局務参与、十六年九月十日に永平寺後董公撰開票審査参与、十七年三月十五日、永平寺東京出張所詰副監院、四月十七日には長安寺へ住職した。十八年十一月十日に永平寺詰副監院、十九年一月二日には永平寺詰監院となり、二十年二月三日、千葉県総教会講長、二十二年九月二十九日に妙応寺へ転住した。二十三年三月十五日には總持寺東京出張所副監院、二十八年三月六日には岐阜県中学校林監理、三十年八月八日に太平寺に再住職、三十二年九月十八日には永平寺吉祥講監督、三十三年四月二十五日には大阪府第一号曹洞宗務支局教導取締、三十四年一月十日、大阪府第一号総教会講長、三十五年一月十日に大阪府第一曹洞宗務支局取締心得、三十六年一月二十四日に曹洞宗師家、三十七年七月十五日に曹洞宗議会議会特選議員、四十年七月十五日に曹洞宗議会議会特選議員、四十一年九月十六日に太平寺を依願退董し、十二月十四日には広島市国泰寺認可僧堂の師家となった。四十三年十月十九日には太平寺の再三住職に就き、

大正二年七月二十六日には特殊功績により随意会地に昇等し、両大本山貫首より法幢資本金壹百円を下附された。大正四年二月二十二日に七十九歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『洞上高僧月旦』『美濃国今須妙応寺史』) 太平禅寺歴任履歴書)

きづーそがく 木津祖岳

嘉永三年(一八五〇)ー大正十一年(一九二二)

本宮市石雲寺二十七世、郡山市飯盛寺、郡山市徳成寺、本宮市龍伝寺。号は大雲、大運。嘉永三年十月十日に新潟県東蒲原に生まれる(一説・福島県本宮)。受業師、本師は木津忠光。桂孝道、瀧澤古芳に参随した。新津市の正法寺に安居。明治二十八年(一八九五)夏初会結制修行、十四年三月、永平寺で転衣、三十一年十二月に石雲寺へ転住し支局副取締に任命され、監事、地方布教部委員長、宗会議員などを歴任する。大正二年(一九一三)の宗議会には副議長に選ばれ、福島県下各宗慈善会の幹部

として公共事業に尽力した。大正十一年十月八日に七十三歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』)

きづーちゆうこう 木津忠光

文政三年(一八二〇)ー明治三十一年(一八九八)

本宮市石雲寺二十六世、本宮市大泉寺二十七世。号は戒庵。新潟県新津市に生まれる。本師は円応道融。新潟市大栄寺に安居、明治三十一年八月十五日に示寂した。

きつかわーえつじょう 吉川悦乗

ー明治二十八年(一八九五)

阿賀野市長福寺二十五世。号は大信。新潟県三条市上ノ原の吉川甚平の子に生まれる。受業師、本師は大庵仙明。曹洞宗同盟会第十九番議員を務めており、明治二十六年(一八九三)には本堂、二十七年に庫裡を再建した。二十八年十一月十八日に五十六歳で示寂した。

きつかわゝえつりゆう 吉川悦隆

明治五年(一八七二)―昭和二十八年
(一九五三)

阿賀野市長福寺二十七世、村上市大智院十五世、矢板市鏡山寺二十六世、新潟市長安寺十八世、東京都勝興寺二十六世、五泉市便住寺十七世、新潟市正禪寺開山、新潟市光明寺開山。号は大庵(安)。明治五年十月八日に生まれる。本師は吉川悦乗。明治三十六年(一九〇三)より大正四年(一九一五)まで宗務院書記、部長及び総務秘書、七年には宗会議員、昭和二年(一九二七)に庶務部主事、六年より九年まで庶務部長、財務部長、十五年に総務、寺院等級査定会委員、宗憲改正特別審議会委員長、法式改良審議会委員長、仏教連合会理事、駒澤大学理事長、宗務院宗機顧問所長、六年以来、總持寺出張所副監院、同監院事務取扱、同監院、總持寺顧問、十九年四月に總持寺顧問会副議長、同議長、永平寺大遠忌顧問などを務めた。栗山泰音に三十八年間隨身しており、十四年四月には『栗山禪師自適集』を編集し刊行した。二十八年九月

月二十日に八十二歳で示寂している。(『栗山禪師自適集』『曹洞宗現勢要覽』『曹洞宗報』第二二二二号)

きつかわゝかつそう 吉川活宗

―明治六年(一八七三)

焼津市林叟院二十九世、静岡市法幢寺十八世、伊豆市光月院十三世、牧之原市石雲院。号は愚門。静岡県榛原郡藤守の吉川万六の五男に生まれる。受業師、本師は祖海徹宗。明治六年十二月二日に示寂した。

(『林叟院住山記』)

きつかわゝしょうじゅん 吉川彰準

明治三十七年(一九〇四)―平成五年

(一九九三)

浅口市法林寺、浅口市長川寺三十世、井原市永祥寺。号は規道。明治三十七年五月十七日に岡山県浅口郡鴨方町深田の吉川静陽の長男に生まれる。受業師、本師は英克成。大正十三年(一九二四)に私立金光中学校を卒業、瑞応寺僧堂に安居、昭和五年(一九三〇)に總持寺に安居、岡山県第一

教区長、宗務所教化主事などに就き、民生委員、保護司、調停委員などを歴任する。

また、良寛の研究に尽力し、全国良寛会顧問も務めている。著作に『良寛修行と玉島』『良寛雑話集』『良寛の世界』や良寛、玄透に関する研究論集などがあり、良寛の研究に尽力した。平成五年九月十一日に九十歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』『曹洞宗現勢要覽』『歴住世代帳』『過去帳』『傘松』第六〇二号)

きつしゅうゝしょうしん 吉州正信

大正六年(一九一七)―平成四年(一九

九二)

埼玉県北葛飾郡正明寺二十世、川越市蓮光寺二十八世。号は皓道。大正六年七月五日に埼玉県北葛飾郡杉戸町の吉州棟運の長男に生まれる。受業師、本師は小川道悟。昭和十三年(一九三八)三月十日に駒澤大学専仏科を卒業、四月から十月まで永平寺に安居、二十二年四月三十日に豊岡村議会議長、二十八年五月一日に豊岡村議会議長、三十年四月一日より泉村議会議長、

三十四年九月十一日に杉戸町議会議員、九

月十九日、杉戸町議会教育厚生常任委員会
委員長、三十六年九月二十七日に杉戸町議

会副議長、四十二年五月二十六日には杉戸
町議会議長、四十六年九月十七日に幸手町

外三ヶ町衛生組協議員になる。その他、昭
和三十七年十月四日には杉戸町民生委員推

薦会委員長、三十九年十一月五日に杉戸町
母子健康センター運営協議会委員、四十八

年四月一日に杉戸町献血推進協議会会長、
六十三年十月一日、杉戸町特別職報酬等審

議会会長を始め、昭和三十七年五月には杉
戸町立東中学校PTA会長、杉戸町内PTA

A連合会会長、四十年五月、埼玉県PTA
連合会理事なども務めた。六十年七月十日

に蓮光寺住職となり、平成四年九月二十九
日に七十五歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要

覧』「傘松」第五九一号)

きつしゅうーかんりゅう 吉州観隆

一 大正十一年(一九二二)

熊谷市香林寺十六世、熊谷市常楽寺十七
世。号は瑞翁。大正十一年六月二十五日に

八十四歳で示寂した。

きどうーそはく 其道素白

弘化二年(一八四五)ー明治四十四年
(二九一一)

伊賀市十念寺八世、伊賀市広禅寺三十三
世、上野市見徳寺二世、上野市高德寺六

世、津市長徳寺開山。号は月堂。弘化二年
四月八日に三重県阿山郡伊賀町柘植町の濱

地一清の子に生まれる。受業師は一相圓
成、本師は武内尚寛。万延元年(一八六

〇)三月二十日に津市四天王寺に安居、文
久二年(一八六二)正月より明治元年(一

八六八)九月まで宇治市興聖寺に安居、二
年より五年まで金沢市天徳院に安居。三十

一年十二月に三重県第一号宗務支局詰とな
り、三十二年二月に三重県第一号宗務支局

副取締、四十年三月には三重県曹洞宗第一
宗務所長を務めた。明治四十四年三月二十

五日に六十六歳で示寂した。

きどうーだいしん 機道太心

嘉永二年(一八四九)ー昭和二年(一九

二七)

市原市金光寺十一世、市原市福寿寺、市原
市西光寺十九世、いすみ市成就院二十世、

富津市善福寺二十五世、市原市大通寺七十
四世。嘉永二年三月二十八日に千葉県市原

郡白鳥村朝生原の岩佐又左衛門の五男に生
まれる。受業師、本師は勝山機外。三歳に

して千葉県夷隅郡古沢村の善福寺の機外に
就て沙弥となる。安政三年(一八五六)夏

同寺機外の初会に入衆、五年七月まで機外
に随侍した。続いて慶応四年(一八六八)

まで君津郡馬来田村の真如寺大道に随侍、
明治元年(一八六八)夏、市原郡月崎村の

永昌寺卍道の初会にて立職、同年より五年
八月まで、国府台総寧寺の服部元良に随

侍、六年より十二年まで我孫子町正泉寺の
服部俊童に随侍、千葉中教院専門支校を卒

業。明治元年七月に機外の室に入て嗣法、
五年七月、教導職試験、九月権訓導、七年

三月訓導、八年少講義、同年の五月中教院

試験係、千葉中教院洞済二宗事務取扱、宗
議会議員、十五年より十七年まで千葉専門

支校句読師兼学監、二十四年千葉、茨城、

栃木三県連合中学林寮監、三十九年九月、千葉県小小学林学監、大正二年（一九一三）一月、千葉県第三宗務所長に就く。昭和二年七月八日に七十六歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』「過去帳」）

きのしたーぎんしょう 木下吟嘯

明治三十一年（一八九八）一昭和十一年（一九三六）

東京都摠禪寺三十世。号は一龍。明治三十一年二月十一日に東京浅草橋場の木下吟龍の長男に生まれる。受業師は木下吟龍、本師は大石観法。宇治の興聖寺に安居。昭和十一年四月十八日に三十九歳で示寂した。

きのしたーぎんりゅう 木下吟龍

安政六年（一八五九）一

東京都福寿院、東京都摠禪寺二十九世、東京都総泉寺四十二世。号は起雲。安政六年一月二十四日に生まれる。受業師、本師は千葉俊機。明治九年（一八七六）七月より能仁柏巖に随侍した。十五年四月に曹洞宗大学林に入学し卒業。十七年には総泉寺で

明治期以降曹洞宗人物誌（十）

立職し、十八年三月十五日に千葉俊機の室に投じて嗣法する。九月には總持寺に安居し、十九年二月より永平寺に安居し、二十

年には東京府の曹洞宗専門支校の教師となり、二十二年には福寿院に首先住職した。

二十三年九月には総泉寺へ転住し、二十七年に東京府下曹洞宗務支局の教導副取締に任ぜられたが、まもなく辞職した。二十九

年九月には曹洞宗第四項議会議員に推挙され、三十一年十二月には曹洞宗紀綱寮司に

選ばれた。曹洞宗の雄弁家の一人に数えられる。（『明教新誌』第四二八〇号『洞上高僧月旦』）

きのしたーどうせん 木下道仙

一 大正十五年（一九二六）

輪島市光現寺二十三世、石川県鳳至郡蔵福院二十世、珠洲市金峰寺三十五世、金沢市浄住寺四十三世、木更津市真如寺四十三世。号は竹喬。能州に生まれる。木下道海に参随し、曹洞宗両本山布教師、千葉県第五宗務所長、石川県専門支校学監を務める。大正十五年三月一日に示寂した。（『當

山歴住示寂年譜』「明教新誌」第二一六九号）

きふねーぜんのお 木船全能

明治三十年（一八九七）一昭和四十二年（一九六七）

大田市慶福寺十九世。号は無学。明治三十年十一月一日に島根県都智郡三原村に生まれる。早稲田大学哲学科卒業、宗議會議員、庶務部長、世界宗教融合和一運動主幹、ほほえみ会全国本部長を務める。昭和四十二年九月二十九日に示寂した。（『洞門龍象要覽』）

きふねーりょうしゅう 木船良秀

明治十八年（一八八五）一昭和三十七年

（一九六二）

岐阜県不破郡妙応寺四十五世、金沢市広昌寺、大阪市興福寺、米原市西福寺二十九世。号は天海。明治十八年九月十一日に金沢市石坂町の木船互の長男に生まれる。幼少は雄豊と称した。受業師は朝耕田、本師は北山絶三。明治三十二年（一八九九）よ

り三十六年まで大乘寺に安居、三十七年より四十年まで妙応寺と名古屋市安齋院に安居した。昭和九年（一九三四）には管内布教師、十二年から妙応寺僧堂准師家、十二年に教区長となる。昭和三十七年十二月二十一日に七十八歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』『洞門龍象要覧』『今須美濃国妙応寺史』）

きまたーたいこう 木全大孝

明治二十八年（一八九五）ー昭和三十六年（一九六一）

浜松市大蔵寺七世、浜松市太月寺八世、浜松市瑞生寺六世。号は絶学。明治二十八年三月二十九日に愛知県稲沢市下津の木全家に生まれる。受業師、本師は谷沢孝道。名古屋市の円通寺に安居し、陸鉞巖に参随。大正八年（一九一九）に日本大学宗教科専修を修了、宗議会議員、東海布教管理統管、静岡県仏教会会長、十三年には大蔵寺住職、昭和三年（一九二八）には浜松市仏教養老院理事、六年には財団法人遠州仏教積善会理事、九年には浜松市社会教育委

員、十一年には静岡県方面委員、十三年に静岡県保護観察所保護司、翌年には司法保護委員、十七年には浜松市議会議員、翌年には浜松仏教養老院長になる。二十一年に浜松区成人保護司会長、浜松教養護院長、浜松市民生委員推薦委員長、財団法人遠州仏教積善会長に就任した。同年十二月には浜松市に養護老人ホーム「光音寮」を設立、二十二年浜松市議会議長、同市の社会事業共同募金会委員長を務めた。二十五年、西遠地方青少年問題対策協議会委員長、翌年には静岡県社会福祉協議会顧問、浜松市社会福祉協議会副会長、二十七年六月には浜松に更生施設「慈照園」を設立した。三十年、浜松市社会福祉協議会長に就任、三十六年十二月二十六日に六十六歳で示寂した。（『洞門龍象要覧』『静岡人物誌』『社会福祉の先覚者シリーズ』No.7）

きみこうべーけいしゅう 喜美候部継宗

大正四年（一九一五）ー平成十二年（二〇〇〇）

東京都青松寺四十五世、高崎市龍広寺二十

七世、高崎市長年寺四十三世。号は覚堂。大正四年六月二十五日に高崎市若松町に生まれる。受業師、本師は喜美候部省吾。昭和十四年（一九三九）に慶応義塾大学法学部法律学科を卒業、十一年に龍広寺に首先任職する。二十一年に青松寺僧堂に安居、二十六年には長年寺に転住、四十六年に青松寺の住職に就任した。五十九年には永平寺顧問、六十一年には永平寺東京別院監院、平成元年（一九八九）には永平寺別院長谷寺僧堂准師家に就任、三年に曹洞宗師家に任ぜられる。八年九月には永平寺副貫首に就任し、長谷寺専門僧堂堂長にも就いた。その他、駒澤大学評議員、東京同真会長、関東同真会長、宗務庁経歴調査会特別審査会委員、駒澤大学寄付行為改定検討委員会委員、青松幼稚園長、駒澤大学野球部後援会長なども務めた。平成十二年六月二十一日に八十五歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』『傘松』第六八二号）

きみこうべーしょうじ 喜美候部正志

昭和七年（一九三二）ー平成十一年（一

九九九)

葬儀(一)

きむらーしかい 木村資契

高崎市長年寺四十四世、高崎市龍門寺二十
七世。号は覺天。昭和七年十一月二十五日

きみこうべーせいご 喜美候部省吾

明治四十二年(一九〇九)―昭和六十二
年(一九八七)

に群馬県高崎市箕郷町東明屋の喜美候部謙
正の長男として生まれる。受業師、本師は

明治二十九年(二八九六)―昭和三十七
年(一九六二)

山梨県東山梨郡高雲寺、山口市臨川寺、萩
市海潮寺四十世。号は高雲。明治四十二年

喜美候部省吾。昭和二十六年(一九五二)

東京都青松寺四十三世、高崎市龍広寺二十
五世、高崎市長年寺四十二世。号は鏡肝。

一月二日に熊本県天草郡に生まれる。受業
師は渡辺規契、本師は木村隆法。昭和九年

三月に群馬県立高崎高等学校を卒業後、四
月より三十年三月まで青松寺専門僧堂に安

明治二十九年二月三日に群馬県高崎市若松
町の喜美候部家に生まれる。受業師、本師

(一九三四)に駒澤大学仏教科を卒業し永
平寺、總持寺に安居。同年に島根県永明寺

居しながら三十年三月に駒澤大学仏教育学部
仏教科を卒業。三十年四月より四十六年

は佐藤鏡額、北野元峰に随身する。大正三
年(一九一四)に群馬県高崎中学を卒業、

認可禅林講師を拝命し、山梨県山梨郡高雲
寺に首先住職した。十三年に山口市の臨川

四月まで群馬県公立小中学校の教員に就
任、三十年九月一日に龍門寺住職、四十八

第一中学校補習科卒業。大正十一年には慶
応義塾大学文学部を卒業。昭和二年(一九

寺へ転住、十六年には満州国駐在開教師を
拝命、二十七年には萩市の海潮寺へ転住、

年三月十二日には長年寺住職、四月には榛
名愛育幼稚園園長に就任した。五十四年四

二七)に群馬県長年寺に首先住職して以
来、龍広寺を兼務、二十三年には青松寺に

四十九年には總持寺大遠忌の授戒会で引請
師、焼香師を拝命、五十六年より五十八年

月より平成二年三月まで群馬県私立幼稚園
協会理事に就いており、五十六年三月には

住職し、長年寺、龍広寺を兼務した。十六
年八月には群馬県宗務所長、二十一年四月

まで萩市仏教団長を務めた。海潮寺の客殿
を改築し、六十二年三月十三日に七十九歳

榛名愛育幼稚園新園舎落成並びに学校法人
長年寺学園を設立して理事長に就任する。

には宗議会議員となり、青松寺専門僧堂の
堂長、準師家も務めた。三十七年六月二十

で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『海潮寺
開山歴住伝譜』)

平成元年(一九八九)五月二十二日には曹
洞宗宗議会議員に当選する。また、新境内

七日に六十七歳で示寂した。(『曹洞宗現勢
要覧』『傘松』第二八〇号)

きむらーしゅうけん 木村秀憲

墓地「陽光苑」を落成するなどして十一年
七月二十六日に六十八歳で示寂した。(『面

山和尚法孫系譜』『傘松』第百七二号、『本

大正八年(一九一九)―平成七年(一九
九五)

大崎市瑞川寺三十三世。大正八年一月二日に宮城県古川市三日町に生まれる。本師は木村智秀。駒澤大学仏教学部仏教学科卒業。永平寺に特別安居し、昭和四十三年（一九六八）には瑞川寺に梅花講を結成した。宮城県曹洞宗宗務所長や永平寺高祖大師報恩授戒会焼香師を務めた。平成七年六月十日に七十七歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』「傘松」第六二二号）

きむらーしょうはん 木村正範

明治三十六年（一九〇三）―昭和五十八年（一九八三）

名古屋市陽秀院十五世、名古屋市善光寺五世、京都府船井郡千峰寺十世。号は義海。明治三十六年十一月二十六日に名古屋市に生まれる。本師は橘宗範。大正十年（一九二一）に曹洞宗第三中学校を卒業している。永平寺名古屋別院監院、教区長、永平寺参与、道交会愛知第一副支部長、名古屋市中区仏教会長、名古屋市仏教会長、愛知県仏教会長などを務め、名古屋の仏教活動に努めた。その他、保護司、中区少年補導

委員などにも就いた。昭和五十八年七月二日に世寿八十歳で示寂した。（『洞門龍象要覧』「傘松」第四七九号）

きむらーせいかん 木村清鑑

明治十三年（一八八〇）―昭和三十四年（一九五九）

北海道久遠郡延命寺六世、北名古屋市靈松寺十三世、北海道奥尻郡乾清寺三世、北海道久遠郡大法寺開山、北海道北斗市七宝寺勸請二世。号は大臨。明治十三年八月十日に愛知県に生まれる。受業師、本師は確天良重。大本山布教師伊藤俊道に参随する。愛知県より単身にて来道し、布教に尽して新寺を建立した。昭和五年（一九三〇）に曹洞宗道会議員となり、十三年には北海道第一曹洞宗務所長に就き、その後、鉢山布教師、教育委員、司法保護連盟会長、瀬棚公安委員長を務めた。昭和十五年七月には泰慧昭禪師を拝請して授戒会を修行し、皇紀二六〇〇年曹洞宗記念賞を受ける。司法大臣、法務総裁より感謝状を受けている。昭和三十四年一月二十一日に八十歳で示寂

した。（『曹洞宗現勢要覧』）

きむらーだいき 木村大龜

明治二年（一八六九）―大正九年（一九二〇）

大崎市瑞川寺三十一世。号は壽山。明治二年八月二十一日に宮城県登米郡桜場の大場隆覚の長男に生まれる。後に祖父の木村隆禪の養子となる。受業師は大場隆覚、本師は木村隆禪。明治二十三年（一八九〇）に仙台沙弥校教授となり、三十五年宮城県刑務所監獄布教師となり、続いて宮城監獄古川分監教誨師、宮城県出獄人保護会幹事として更生事業に身を尽くす。明治中期の両本山分離問題には松音寺の木村文明とともに非分離に尽した。大正九年五月二十九日に五十二歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』『釋南崖祖翁詩偈遺集』）

きむらーたいけん 木村泰賢

明治十四年（一八八一）―昭和五年（一九三〇）

八幡平市東慈寺二十世。明治十四年八月十

一日に岩手県岩手郡田頭村の木村亀治の二男として生まれる。受業師、本師は村山実定。明治三十四年に私立青山学院中学部を卒業、三十六年に曹洞宗大学院を卒業し、四十二年には東京帝国大学文科大学哲学科を卒業した。成績優秀にて恩賜の銀時計を受け、東京帝国大学特選給費生を命ぜられて大学院に入り、インド哲学を学ぶ。東京帝国大学講師、曹洞宗大学講師、東洋大学、慶応義塾大学などからも請される。三十七年二月には日露戦争の勃発により、五月、第八師団に陸軍二等看護卒として充員召集され、満州に出征して第三野戦病院に勤務した。しかし、戦地での慣れない軍務のため体を壊してチフスにかかり、数十日間も病の床に伏した。大正三年(一九一四)十月、最初の著作として恩師の高楠順次郎と共著『印度哲学宗教史』を刊行した。四年五月には高楠博士校閲のもとに『印度六派哲学』を刊行、五年六月、本書に対して帝国学士院から恩賜賞が授与された。八年七月から満二年間、印度哲学研究のためにイギリスやドイツへ留学し、帰朝

してから『原始仏教思想論』と『阿毘達磨論の研究』を著わした。十二年一月には文学博士の学位を得て、三月から帝大教授に任命され印度哲学第一講座を担当した。十三年三月には、仏教思想上で近代的な意義を与えた『解脱への道』を刊行している。昭和五年五月十六日に狭心症で五十歳にて示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『西根町史』『木村泰賢全集』)

きむらーだいてい 木村大鼎
 一 明治四十四年(一九一四)
 愛知県知多郡天龍寺法地開祖、愛知県知多郡延命寺十九世、愛知県知多郡正衆寺二十二世。号は克文。本師は達林魯道。明治十四年三月十三日に示寂した。

きむらーたんりゅう 木村潭龍
 明治十八年(一八八五)ー大正十二年(一九二三)
 山口市正福寺十七世。号は含玉。本師は松村道隆。明治十八年四月二十五日に山口市佐波郡出雲堀の木村家の次男として生まれ

る。明治四十一年(一九〇八)曹洞宗大学院を卒業。正福寺住職の旁ら、和歌、俳句の会を催し、九條武子や徳川義親、新井石禅らと親交があつた。山口県報徳会々長として社会教育にも尽力し、子供の教化活動として少年会などを開催し、青少年教化にも尽力した。大正十二年三月二十日に四十一歳で示寂した。

きむらーぶんみょう 木村文明
 嘉永五年(一八五二)ー大正十年(一九二一)
 二一)
 仙台市龍泉院、仙台市松音寺三十五世。号は俊喆、古城。嘉永五年四月に宮城県桃生郡小野郷の木村家の長男に生まれる。受業師、本師は泰栄。明治元年(一八六八)夏、仙台東禅寺の泰運の首座となり、長泉寺の徳隣に師事すること十年、その後、西有穆山に随侍して東京駒込の旃檀林に三年間掛錫した。四年十月、龍泉院に首先住職し、十七年には初会結制を修行した。二十二年四月に松音寺に転住し、十年より専門支校の教師となつて以来、宗務支局副取締、

取締となる。曹洞宗大学林学監、軍人布教師、岡本山布教師、宗議会特選議員、宮城県第一宗務所所長なども務めた。その他、居士会と称して毎月居士などを集め禪書を提唱した。また免囚保護事業である宮城県共済会長も務めている。大正十年九月十六日に示寂した。〔『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』〕

きむらーほうざん 木村豊山

明治十二年(二八七九)ー昭和三十一年(二九五六)

山梨市実相寺十八世。号は富門。明治十二年一月六日に山梨県東山梨郡牧丘町馬場の木村哲門の長男に生まれる。本師は木村哲門。明治十九年(一八八六)に日川中学を卒業、三十四年六月一日には北清事変分隊長として北京、上海に転戦、三十五年に甲府地方裁判所の書記を務め、四十一年には満洲鉄道守備隊として従軍した。社会教育委員、青少年教化委員、負債整理委員、方面委員、民生委員、那仏教会理事などを務めた。昭和三十一年二月二日に示寂している。

〔『曹洞宗現勢要覧』〕

きむらーゆうさい 木村雄哉

明治三十九年(一九〇六)ー昭和六十二年(一九八七)

北九州市吉祥寺十三世。号は秀岳。北九州市若松区本町の甘蔗栄秀の二男に生まれる。受業師、本師は甘蔗栄秀。東京大学法学部を卒業し永平寺、總持寺に安居。福岡県宗務所長、曹洞宗宗会議員を務めた。昭和六十二年十一月三日に八十二歳で示寂した。〔『洞門龍象要覧』〕

きむらーゆうざん 木村雄山

?ー昭和二十七年(一九五二)

奥州市鳳凰寺十五世、岩手県胆沢郡永徳寺三十七世。号は太玄。岩手県岩手郡田頭村に生まれた。受業師、本師は小原春琳、報恩寺の哲道に参随した。東京大学英文科を卒業した後、土浦中学校教諭、梅檀中学教頭、台北中学校長を務めた。昭和二十七年十一月二十九日に六十八歳で示寂した。〔『曹洞宗名鑑』〕

きむらーりゆうほう 木村隆法

明治八年(一八七五)ー昭和三十七年(一九六二)

青梅市覬沢院、愛媛県喜多郡高昌寺、萩市海潮寺三十九世。号は仏海。明治八年に山口県大島郡の長井儀兵衛の三男として生まれる。受業師は木村随法、本師は浅野祖田。明治四十一年(一九〇八)に東京帝国大学文科哲学科を卒業、四十四年に東京府西多摩郡の覬沢院に首先住職し、大正三年(一九一四)に高昌寺へ転住、八年に海潮寺へ転住して昭和二十七年(一九五二)までの三十五年間在住した。大正十五年、總持寺貫首新井石禅の御親化、昭和二年に海潮寺の禅堂を新築し、九年に海潮寺境内の旧保福寺地藏堂大伽藍を再建した。十二年、十六年に總持寺での焼香師を務め、三十年には大梵鐘鑄造及山門鐘樓の大修理、三十三年には海潮寺開山五百五十回大遠忌を總持寺貫首孤峰智琛が御親化。三十四年には總持寺より海潮寺重興の称号を賜る。三十七年十二月二十六日に世寿八十八歳で示寂した。〔『海潮寺開山歴住伝譜』〕

きむらーりようゆう 木村良猷

明治八年(一八七五)ー昭和二十一年(一九四六)

一関市大祥寺四十二世、一関市道慶寺二十三世。号は南宗。明治八年、秋田県平鹿郡の斉藤家に生まれる。受業師、本師は祖心玄猷。大乘寺専門僧堂に安居した後、曹洞宗岩手県宗務所第七教区長などを歴任した。昭和二十一年三月十七(二十一)日に七十三歳で示寂した。

きよしーそうがく 清 相覚

ー大正八年(一九一九)

佐賀市慈音院、佐賀市龍泰寺三十一世、京都市洞谷寺十九世。号は圓桂、本然。本師は圓岩相隣。明治九年(一八七六)頃、慈音院の堂塔が破壊していたので復興し、その後龍泰寺に転住した。大正八年二月二十五日に永平寺で示寂した。(『明教新誌』第三七七号『講田法系攷』『天桂禪師靈楠陽松庵史』)

きよなりーちのう 清成智納

明治二十七年(一九四四)ー昭和四十二年(一九六七)

下関市海晏寺二十二世。号は天外。明治二十七年五月一日に下関市伊崎町に生まれる。曹洞宗大学卒業、国学院大学高等師範部卒業。宗務所長、宗会議員、永平寺副監院、成人保護司会長、民生委員会々長、市公安委員長などを務めた。昭和四十二年五月二十二日に七十四歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』)

きよはらーけいどう 清原圭堂

ー明治十年(一八七七)

出雲市南泉寺十二世。号は素珀。出雲市今市町の佐々木久兵衛の長男に生まれる。明治十四年には本堂の屋根替を行った。四十年三月五日に六十八歳で示寂した。(『南泉寺過去帳』)

きよはらーこがく 清原巨学

ー明治二十一年(一八八八)

福島県西白河郡澄江寺二十四世。号は潭

海。現在の白河市に生まれる。寺子屋と弓の指導を行い、墓石の台座には教え子らが記されている。明治四十一年二月二十二日に示寂した。

きよはらーしょうどう 清原正道

明治二年(一八六九)ー大正十二年(一九二三)

松坂市神楽寺十一世。明治二年五月六日に宇治山田の濱邊藤平の四男に生まれる。受業師は前原朴全、本師は清原大英。明治十五年(一八八二)に昌慶寺に入衆し、二十年、松坂の養泉寺で立職した。十九年には専門支校に入り、二十三年に卒業した。その後、浄眼寺の袖岡素雄、養泉寺の水野良英、可睡斎の西有穆山らに参随する。二十五年四月に總持寺に瑞世し、二十六年四月には神楽寺に住職する。曹洞宗務支局の庶務会計、取締所長などを歴任し、管内布教師として布教に尽力する。自坊に禅話会を開き、禅を提唱して大いに教界に光彩を添えた。山門を修繕したり庫裡を再建して法器や仏具を新調した。大正十二年十一月二

十三日に示寂している。(『曹洞宗名鑑』)

上『伊香郡誌』)

きりはたーとくしゅん 桐畑徳峻

きりやまーだいあん 桐山大安

嘉永五年(一八五二)ー昭和六年(一九

ー明治三十五年(一九〇二)

三一)

長浜市正福庵十一世、長浜市吉祥院十五世、鹿児島市大中寺開山、長浜市洞寿院四十五世。号は不休。嘉永五年五月二十一日に滋賀県伊香郡余呉町川並の桐畑善四郎の

豊田市常楽寺二十七世、岡崎市法林寺五世、愛知県北設楽郡金龍寺二十二世。号は道悟。本師は梅童大枝。明治三十五年旧七月十三日に六十一歳で示寂した。

三男に生まれる。幼名を宇仲治といった。

きんとうーとんりよう 金藤頓良

受業師、本師は是洞俊童。梅崖奕堂、森田悟由に参随した。明治八年(一八七五)内

慶応三年(一八六七)ー昭和十八年(一九四三)

務省教導職、九年滋賀県師範学校を卒業し、永平寺に安居する。三十三年に滋賀県教導職の取締役になり、三十七年に洞寿院を退董し、鹿児島で教団開拓に挺身した。

洞寿院時代には杉の植林を始めた。鹿児島市の大中寺時代には孤児を育て、二葉幼稚園を設立して寺院敷地を拡張していった。

米沢市常慶院、村上市善沢寺。号は静山。慶応三年に新潟県新発田城一の丸内の金藤弥平の四男として生まれる。受業師、本師は無端絶学。永平寺に安居した後、書道などの講師や宗議会議員も務めており、昭和十八年十一月十七日に七十七歳で示寂した。

永平寺特派布教師、大遠忌委員長、宗議会議員、菩提会地方総務などを務めた。昭和六年五月十七日に七十九歳で示寂した。

『曹洞宗名鑑』『近江を築いた人びと